



中村俊定文庫
文庫 18
105



續阿波平集

上

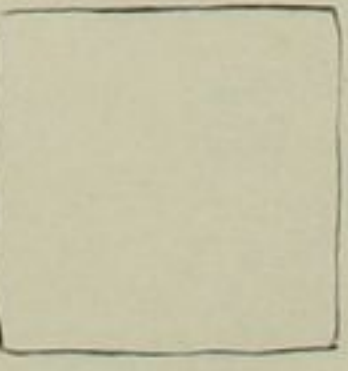
續粟手集叙

諫一臣不得志而離騷經起
 風一雅體製所以換骨存神
 隱一實顯狂也爰識周詩也
 和一詩也俳諧之連歌也並
 行不悖焉近世言句延寶
 至三元祿渾涵汪洋千景萬
 狀無不盡今乃撮可徵者

數_一百_一句_一名_二續_一粟_一千_一集_一
前_一襍_一之_一
各_一義_一見_一
下_一
小_一蓬_一山_一序_一序_一
中_一室_一和_一尚_一跋_一竊_一逐_一先_一考_一轍_一欲_一
進_一來_一者_一馬_一非_一歟_一

屠維大荒落之容

蘭秀軒 横船 書



上二

引

仰て天文と観る。日の運行と
を思ふ。長短のちをぬく。ある。月乃
盈虚十六夜に始て。立てん。かゝる
りて。傳。廿日の周。うきうき。星は衆
あつと。き。こ。それ。比。比。月
相の。日。東。う。ぬ。れて。樓。れ。が。う
そ。の。日。毎の。火。とい。て。う。き。う。き。や。日

やういふおぼし。昔ぞお花とてやういふ。
谷。谷。岩のやういふところからうへと下へ
うへへ下へ。浦のやういふところから
あふあふと。さういふおぼし。
この尾張のよきこと。鳴海。呼。津。濱。
松。尾。原。の。里。あ。く。り。く。い。塩。賣。と
あ。く。り。く。澆。川。澤。沿。り。女。名。と。あ。く。
あ。く。り。く。を。あ。く。り。く。と。清。轍。竹。の

上
に

中。主。杭。ま。く。く。吞。舟。の。魚。い。れ。さ。れ。と。て
月。う。つ。せ。い。い。の。こ。と。い。ふ。と。四。節。乃。序
源。氏。ま。く。り。く。い。れ。さ。れ。と。て。い。れ。さ。れ。と。て
益。好。と。り。く。あ。く。り。く。と。い。れ。さ。れ。と。て
ま。く。り。く。筆。と。架。と。人。名。い。れ。さ。れ。と。て
鄙。諺。い。れ。さ。れ。と。て。士。乃。多。農。の。時。エ。の。名。高。乃
利。い。れ。さ。れ。と。て。恒。の。産。ふ。と。鼓。龍。耳。乃。う。へ
一。丈。一。婦。の。と。り。く。い。れ。さ。れ。と。て。い。れ。さ。れ。と。て

月一酒を草のうへにさす草もあはれ
いしるれを月く滄海と眺み心一帆に
かりあはれく嶽色と望み眼と花もあはれ
やもあはれく帝親御空をまきおぼし
花もあはれくぬにやをまぬぬ青緑草
あはれくさすもあはれぬにいしあはれ
園情の胸衣腸の腸意用食服あはれ
あはれくあはれぬあはれくあはれく

草木の水仙に終り梅に始り子安万紅。
天の素く桔槔零落あはれく縁覚の
眉とあはれくあはれくあはれくあはれく
梅幅あはれく北都。桂枝子魚のやあはれ
あはれくあはれく畫圖あはれくあはれくあはれく
香を収め色と花を切あはれくあはれくあはれく
あはれくあはれくあはれくあはれくあはれく
あはれくあはれくあはれくあはれくあはれく

目録

上卷

天文 地理 節序 懷古 人品

簡寄 為傍付會合 送別 行旅 遊覽

下卷

園情 衣傷 筭用 食服 草木

多獸 畫圖 雜賦

近如 五歌仙



續河波手集上之卷

天文

青月

横舟

古井柳かぐくも果も籠月

又

古渡人晴燕

有明のうさゆきまに柳うさ

又月

山口笑三列川谷 城下

とて月草とて山とてふ川のか



三日月

油雲

居て見えぬいむいまうがきこの月

又

垣軒噴壁

この月のさゆしてはえくく月桂、那

又

よらぬ

この月とあつてとけの火やまや

上信

家紅 川谷住

よらぬ右のこの月あふ——日月

下絃

如吉 三洲川谷

垣越にこれはんぐーハ月夜ふ

月夜

竟齒

かぬぬまに心をうき月夜ふ

凡のあつてやういふ—— 截白

あにおと——して色くゆる月を

月衛昇

一柱観抱月

夜のがら箕子に月のまらふり

深夜月

青崎 跡水如子

空をてうぐつあ月の子丑ふ

五月

自快

あまのそとが女宮にがけの薄月夜

日

川谷 赤仁

ふたの雲ゆく同と照りふ

又

中村 吟松 川谷

ふれ雲の出るやふり入り

上ナ

又

融雲

人のあまのそとく夕日ふ

又

坂倉 松考 四日市

一 富きーの花さる夕日ふ

星

季吟 拾松庵

うのさきやとこふ墓のめふり

又

よらぬね

ねさむー相の紫ふり昂星

又

右田忠元 刈谷

いっ—かき星の夜と—り夕涼

赤雲

刈谷之義

仄守りまのゆんりりせり

霓

抱月

いふりやふれ紫と—り小東

又

瀧邊宮洞 冒市

いふつふにんさまつ—り味ふ

雨

とこぬね

きぬやうととと—り三

文雨

江津郎休

雨にゆきかへまいりぬまき

六月雨久

是鶴

ゆきれの猫子ちりふまにり

白雨

又立に柵乃ほろゆい月星外

雨雨

古田のうま 日口

神く丸右と心のうまぐー

又

寧睡軒松滴

柳乃く常しくてさむきく丸外

又

濫吹

ぬ丸女世の江月世ゆくま丸外

又

萌壁

麦乃くふくふりにまむーく丸外

ゆくま此ハクくさき借りーく丸外

雨雨

不識

一と月まき丸の松乃束うま丸外

釣竿細く杖に滝ーゆ 蘇竟軒樹木

まきーはゆ丸ま雨乃ま丸外

浅き瀬ときと磐波ま益 泥牛

にふあ真嵐のままーある雨

鳥のまー馬の枯骨 常清刈谷

きこはし〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の

冬雨 望雲

あきの末はるゆづり〜〜の〜〜の

又 望雲

人〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の

物言 望雲

ゆ〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の

つ〜〜の首振〜〜の望雲

〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の

物言 涼風軒檜

宮の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の

望雲 月快

おちつく〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の

望雲 涼月

〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の〜〜の

物言 如嬰子刈谷

と月ととる花の片く東半乃雪之

雪

雪

入のまぶ痛く居る比のけし雪

橋上雪

山口之雪

衣のぬる袖うらすれるの雪

山田之雪

山田之雪

雪のふるる北半乃雪

雪

杜中雪

のふるゆの雪乃雪

月お雪

漁人

松白氏

おふるや月乃雪

雪

雪ととるゆる日お雪

雪

雪

松白氏

心つれく雪橋お雪

又

雪

〜ゆづ〜のあ〜れ〜ゆ〜ゆ〜

鹿

鹿角

よ〜う〜の〜は〜も〜は〜も〜は〜も〜は〜も〜

考七折不克

ゆ〜〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

お〜山鹿

常法

か〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜

山鹿夜

さ〜あ〜の〜

ん〜う〜つ〜鹿とゆ〜や〜と〜が〜板

旧市任松島氏

山鹿

穂積姓岩海

け〜ん〜れ〜あ〜ら〜う〜も〜ぞ〜も〜せ〜あ〜ら〜ふ

き〜付鹿

朔壁

つ〜や〜く〜と〜板と〜も〜も〜あ〜か〜と〜あ〜

鹿福月

測水

月〜〜と〜腕〜ハ〜手〜れ〜と〜〜と〜と〜

岩

岩海

つゞくしつる夢乃り長ふ

刈谷酌庵

たの夢我にきくぬ時ふ

おの夢をこ癖は寝安月夜

くもくつる月は花舟よ喜そ

上十六

地理

青城

富田長根刈谷

老の鳴に城はやうとて

又

猿船

呂乃声ハふに鳴くぬとて

撫てうとて一編の花 峭壁

雅くそと地あつて屋の青は戸

清水寺

李吟

地之わがハまはる乃花のこゝろ

士峯

貞室

りーらや戸網とほそくはれ天

又

よふあそび

沖の富士宮をりハまきまき

又

抱月

夕まに命ーまうまハ雲更か

伊吹

一の智日月市

日この雪いおや何と手にぬくま

又

富海

おのぬまそいおんれそくをれ室

らんきんいさき
おのぬま 抱月

三上月をり又苗そく

山七から下よてふ星三上山

中山七里 飛列吟 横舟

まじーとやゆきさくくにぬき

ちくくく水あふふ月そくそく

まねの女はてはねを黒くは 棠街

とん越ほくはまの山行

文川 くらぬぬ

むつろや後法うらぶの葉の末

青海 江崎居休

海和し堤にえあす柳うふ

江

浮きの入に走るく 氷う那

悪習の女はてはねを黒くは 碓氷

魚んろんろんま〜 秋の江

柳木

いまはてはねを黒くは 魚の腹白汁

高康 舌根

し〜 船の乃ほるうぬく 穉月

行き 自使

河を流るる水に柳を

流水 小島十江刈谷

ゆく水のさなはるる水に

又 一ノ智

水くうつとしてさる柳を

流るる舟の月白く明壁

色のおさくしてさる水

又 酌陸

上二十

鳴滝下橋邊中より

清水 丁智

故のせきをうつしてさる水

又 酌陸

二杯め乃味んやうきより

又 坂倉松秀 旧日之

人らゆきくさるる水

井 棠街

古井戸のいりよと黒く一室の如

き池

鹿角

火きくく野あけ池のあきふ

節序

立春

油室

かきむとれくがきくふきよと明にきり

早まき丸

松葉軒

ゆきくく巻れうきくがき乃きり

元旦

硝壁

えんきと門ねきくるゆきや

又

み休居主曉籠

梅自わきハ周きとあハ〜

多聞

明壁

〜、ゆし様の子房らひ日ゆ〜

又

与古奴弥

のときと巾 眠〜あまそと目細

〜〜とやカガカガ乃〜丸尾に残る雨

若水

是鶴

鶴鈴とのとそ〜あ〜水ハ那

水

模村梅雀 法別 珍織

うれ〜〜昔乃一日色〜丸にり

座北砂をゆ〜〜あ〜雲

日乃水〜〜〜〜〜とれあ〜

〜〜〜中店也昔〜ゆ〜海 家紅

心〜〜丸の飲〜〜二〜月

昔水

よ〜あ

〜ゆ〜〜〜〜あ〜する日〜あ〜〜〜

二月廿

小遊十江

此の人考くは三月二十日

首夏

噴壁

あまのつらまへて無事あり月外

藤棚の陰のこさむし、拾う那

新樹

山花子刈谷

花らうきくさうらまの庭あり

又

晴燕

おそろいの雨まじりかきあり

又

柳水

こま蛙あく日のよりのたきあり

又

和田匡克（和歌山）

うきこひの枯あり山花あり

又

横船

独活のまじりかきあり

新川

竜鱗軒抱氷

こゝ竹のゆく心透ふく老をくそ外

おろ紫雲にゆく郭ろ 至宴

こゝ竹のゆく星乃あそむる月のゆく

蚊遣火

寄海

かやこくのゆくゆくあふそく外

葦夜

如嬰子

あけのゆくは乃ゆくちゆ外

又

棠街

あけのゆくは乃ゆくちゆ外

是日

酌随

あけのゆくは乃ゆくちゆ外

又

山二笑

あけのゆくは乃ゆくちゆ外

又

守城刈谷

あけのゆくは乃ゆくちゆ外

あけのゆくは乃ゆくちゆ外

ふりこたはらふの思ふとふりこた

山色納涼

松香

川とつこたあつさひあし

秋涼のつゆ

よこゆね

ふりこたはらふの思ふとふりこた

魚百荷まはらふと白く

秋の月日

秋の月日

日ハ夏のやうにまるとまはらふ

初秋乃百日紅色あはらふ那

一葉

梅仁

ちろちろ一葉あはらふ日ハ留り

又

花白

しるしとしるしとちろちろ一葉あは

七夕

よこゆね

次第どら子に勝るにたお傍外

八月十日庚

明壁

十日庚の月こころ六月のこころ

又

油中

十日庚と月又のこころ

十日庚の月又のこころ

又

ハナ秀木

十日庚の月こころ

又

竜齒

十日庚の月こころ

八月十八夜

暗気

右月こころのこころ

又

明壁

右月のこころ

又

神宮

右月こころの形

又

曉龍

連歌して酒うきくぬ月分

秋夜

満足 園田松盛

玉うき明ぬ夜言くもぬ星

又

よこぬ子

あでつゆもみかひらむらむらむら

又

涼月

ぬくまのさかぬあつ人の夜を分

又

後似 尾州津崎
伊右氏

はらかちのをきくまに夜を分

秋夕

曉龍

入日まよと飲はく秋のくれ

又

東全 竹葉水

一 ぬきといでく鴨るふか那

紅葉編

曉龍

やまもぬく残り一葉とくち分

又

仕をに

二葉し〜〜枯れかゝる女と云ふ

紅葉未遍

杜中二の習

おとらんハキのぬとゆる〜紅葉が

紅葉盛

胡壁

おころむと〜〜〜紅葉が

苔林

冷谷

とのおれて 標のまの〜〜〜

初を

探薄

〜〜〜がに 躑くろろあ

又

曉廳

いん〜の〜日さる 火燈ふ

小考〜の〜と

誰虫

〜〜〜の枯さる 小まが

枯野

梅仁

一 窓の透〜〜ゆむの丸の丸

残紅

よる毎夜

ありてはまたの春あきて残紅の影

をみ

露紅

あつちりし鐘つきのゆるいあけ

日とてはてはまの露草が泣く

冬——九女右のまのまの蔓

痕の履と踏まぬは 峭壁

こぼれゆくは 睡にまの七八分

まのまの甲に

神宮

まのまの息よりまのまの歩み

あまの家に息もあまの 竜出

ういりくまのまのまの人のまの

まのま

推歌堂一山

うのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまの

あまのまのまのまのまのまの

水柱

菊草

理のささげのていごのていごのていご

水

雲霧

雲の境色をくそりて水

故温

水舟の口め日きく水舟

打水

竜歯

水舟の口め日きく水舟

又

水舟の口め日きく水舟

水舟の口め日きく水舟

澄月

水舟の口め日きく水舟

周鏡

水舟の口め日きく水舟

林支

水舟の口め日きく水舟

自快

ありしはアキコトシハ薄氷

池水

桐亭

鷺の舞いと川を志す又水ふ

汀水

嵐雪

鴨らまじり水もくまゆむ水ふ

峭壁

生れぬそし母もまをむ水ふ

待宮

与古市奴

宮をまじり年ハ波の舊中身

宮中身

言端

宮のまじり波をれが水ふ

又

故温

古くも又身もくまじり水

宮中身

芭蕉

馬もくまじり水宮のまじり水

又

よこぬね

らん月の宜ちうく約乃是早一

歳暮

峭壁

梅咲くこれふ古く年の果

月快

とりく陰日色うれあう昨是也

吉根

おの種がうへも果友二郎季外

刈谷松樂

ねとめにもふりこもぬき季外

平林吟松信列
仁科々

んといあると東屋を焼くといは外

銀瓶あり木園この
大柿

とくの東乃橋杭もくもゆき

よこぬね

丸橋のいも色をゆきといは外

懐古

伯夷

佳堂湖山子この

白牡丹伯夷の富ゆをわたり那

を不^レ早^クと^テも^テ流^ルる^ハ明^壁

雪入の回にのほれておんさく

振袖羽織さくぬ秋風 是翁

あさ^ハほ^クつ^ハま^ダご^トく^ハ先^妻子

出聲

明壁

七年のふゆに色は地ふま宿の梅

牧屋かき主ゆくかきり

大王ふま^レの夜^の友とあり

桃林

明壁

くれく^レ中^をあ^まく^レ桃^白

栗柄堂

安宣 鳴詠位

棋子^もく^レに^はく^レの^存と^り

懐古勢物語

明壁

けきく九素平おれりしん

曰毫

抱月

弦と乃二代いどいり燕々那

人品

士

横船

敷としてせいのぬがら友寄切

海ゆるる百姓此富 胡壁

大身ととととして素らとてまのて

おやふとておとる地震 言縮

しんらとてゆらとてゆらの膝

丸とては置のた筋 胡壁

あかびで覆てれこやふ虫やせん

農

耕田亭吟

独つらてきねぬ田うらふ

村山角呂この関

言はれぬ姉にいん遣田うらふ

よし女

草也 四日市

しあふしよふよふとくく田植外

田守

神守

鹿道及ほごうまべしやおとこ外

茶摘

不均

おで辰ろ茶つふ詠人アおせ

樵史

柳水

能ららの宮へ神をりまこふ外

炭焼

水沢大連

せししあの声城へあき春日外

又

洋笛

中ノ川二段ノ考乃小路外

牧童

桃菜

反草に馬でゆく子の眠る姿

又

宝洞

のこぼる牛んまをまきふ

岩のまにまをまきふ 松橋

まきふの音残るまの川

渡守

双木堂川月

日々のあけやまをゆく守

花土

桃中

いしと踏むやまをゆく宝

海士

一頻

潮干に貝とる蟹をよめる

物近

中村吟松

うつろふまを橋の眠る

又

桃菜

うつゝんの曉もやむこ十日外

僧 是之

僧かつ門をさしてうまゝに

こよひを夜とあけぬ 喪の中 胡壁

つづくくと僧乃こそふたはくす

酒寛 丹好正延

雀子のまぐぬ酒の女、那

水汲 寄海

夕雲雀やくく挿の女、那

窮民 志友一嶺

山、里にハ陵の妻と并にあり

声枯ておろし観るに 潔月

砂へ繪とかくを死乞食

木識 木識

盗人の垣より来る雪水が

又花く山柳乃草 胡壁

是刹の^ミ意^ノ後ハ終^ノの癖^ハん

夫婦有別

右左任他

丈と市に遣て^シ居^ルく^ハぢ^カ思^ハ可

松滴

元^ノ草^ノ平^ノさ^ハま^ハぬ^ハむ^ハつ^ハ火^ノ燧^ノ子

人^ノ魚^ノの^ノ知^ルま^ハほ^ハこの^ノ夕^ノ月^ノ長

母^ノの^ノ法^ノ——^ノこ^ノを^ノい^ノと^ノう^ノの^ノ花

老^ハ何^ハ不^ハ連^ハに^ハ亦^ハ長^ハ憾^ハ気

上四

ぬ^ハむ^ハけ^ハく^ハく^ハ人^ノを^ノう^ノら^ハら^ハず

右^左二人^ノの子^をと^り歩^かぬ^ハ採^薄

餓^ハと^ハま^ハう^ハ丈^ハぬ^ハま^ハう^ハあ^ハゆ

酒^ゆら^ハあ^ハ髪^と判^ぐ胡^壁

女^房ハ^まづ^らふ^そた^のぬ^れれ^らう

嬰子

杜^ハハ^ハの^ハ智

あ^ハの^ハま^ハし^ハく^ハ嫁^シて^ハふ^らの^ハ離^ハふ

於^ハ處^ハ博^ハ共^ハ我^ハを^ハに^ハぬ^らひ^ハ胡^壁

まゝハ結子買まゝく音あし
何とづきやう雅かまにま
信のいゝとて遊女の甲斐あし
二月ほど葛切喰しとや飽友
相つば日けりうつと筆耕

簡寄

亭師兄遍歴

山主

細瓜と寝しとまゝ僧の瘦

宣叔寄僧

明壁

二三日雪にかゝるく 截主が

寄友人不見

赤江

叔のいと常の友とて二叔が

又おまゝも恨には 耆翁

つらつら海の深き月ほし
あつて真の毒にあらぬ硝壁
若月片ふらふを夕のあつて

訪詠 甘谷合

めいせいといふら村雨北天 硝壁

おあおとしていそいそおらおら

中陰月といふら

友よりそふるふ白き乃星

甘谷

冷谷

やきりーとのやそきく蛙外

又

正延

ふらりの夜いそいそあつて

毛ハヤ一日に成り百約 せしめ

こちくくとあつてちちあつて

大墨録子刈谷

ちりりして月言中に泣一人
 止て又飲酒の老つて一晴燕
 花残る美人の花にまよふ
 いづちや此文おつづるめよきし
 ぬりく津平之谷に也
 交友 誰堂 種声抄

送別

海の色もそ 為吟
 標透こみちにともさし 夕の右残外
 送越武外 与と毎の
 馬アチのそとつるおまの花
 送別 胡壁
 ちりりして馬にふのちりり津平心

竹旅

坂下

柳水

志ししくと龍康いさしく桂介

忠ぶらぬ目とそけ 峭壁

穂薄の空がう入 不破の関

旅逸と全持と此品は出 松滴

つれゆせよ彼のときととまが姫

二丁ふれぬ及笈籠大諫まき

かゝる人のかきとあま

ぬきし舟の底の浪は言言端

古心しれとまはあま

旅店

う類

おぬきし草蒲とゆ旅人

前途

是鶴

あふさう乃おハ明安し馬の終

旅宿

猿入のぬきまのくまのついで

流免

いそぐと目北のく旅北志の北

二已

湿草鞋一歩泊り水子

一履

大鳥と燕と月と泊り

寒のからふは推草 是鶴

谷入の宿のゆがてて平久

ふとあきまを垣 是月 村山南呂

密林のおほく 是月 ふう星

行旅

所燕

ふとあきまを垣 是月 ふう星

んら回草也

ゆく道 是月 女

今松 仁科

夕暮やあけく久がまは舟

又

遊覧

いそいでまゝ柳より浦へ

舟は静と先に宿りて是の

負れてあけく舟乃を浅

舟は静と先に宿りて是の

入江の倉々舟は清音

上田十七

遊覧

噴壁

満山乃花詠まゝ庵々々

花

まゝに己

舊篋をさして古閑り遊

社花

一葉

ゆきく〜宮乃夜のまゆ

お花

竹中後町市

岩窟へ移つてゆくところ

いま〜〜 曉施

二月の〜 山籠れつて

花を〜 松中

らう花〜 入の後の〜

おま〜 又蔵

石川〜 お〜 海を望み

振返

よ〜とゆひの塵お中田芥子

又 吟

乳母が〜 ぬち〜 産むと筆

又 かい

またの人摘み〜 出る〜 筆

〜と良き花〜 泥牛

草が〜 酔

草に〜 抱月

海色眺望

宿紅川谷

うらりの霞乃果ハ一帆也

帆

松秀

ほろも舟冬と陸のかきり

眺望

八十八秀木

まほまこころ障ふあはふあ

日のつらとと拾とやく陸水

まゝかろう物のゆく筋は浪とん

破つてゆく浪は東吟

あゝ松乃波の口はまをうね

まをうね

峭壁

よくまのけしやたゆくあ

あ

大津似歌

あゝかつまらるるまをうね

まをうね

柳水

あゝかつまらるるまをうね

紅糸鉉

腕籠

美^々々々々々阿^々々々々々紅糸鉉

冷谷

紅糸鉉^々々々々々々々々々々

